小竹図書館　図書館利用者懇談会

1.　日時　　令和３年度 10 月 30 日（土）　10 時 30 分～12 時
2.　場所　　小竹図書館　２階　会議室
3.　出席者　利用者　　12 名
　　図書館　　４名
　　（小竹図書館長、副館長、副業務責任者、テルウェル東日本マネージャー）
4.　テーマ　「コロナ禍における図書館サービス」（練馬区立図書館テーマ）
　　～コロナ時代の読書活動と、公共図書館に望むこと～（小竹図書館）
5.　配布資料　(1)次第
　　(2)図書館利用案内
　　(3)令和３年版練馬区教育要覧（図書館部分抜粋）
　　(4)練馬区立図書館報「図書館だより」
　　(5)小竹図書館広報紙　「すてんどぐらす」（９月号、10 月号）
　　(6)事業（11 月～開催予定）のご案内
　　(7)アンケート用紙
6.　次第　　(1)小竹図書館長およびハートフルサポート共同事業体運営担当者の挨拶
　　(2)図書館員紹介
　　(3)参加者自己紹介
　　(4)小竹図書館について
　　(5)懇談
　　・コロナ禍における図書館サービス
　　・コロナ時代の読書活動と、公共図書館に望むこと
　　(6)質疑応答

小竹図書館利用者懇談会　会議録

１　小竹図書館長およびハートフルサポート共同事業体運営担当者の挨拶

本日はお忙しい中、小竹図書館の利用者懇談会にお越しいただきまして、ありがとうございます。小竹図書館は平成 26 年度に指定管理者制度が導入され、私どもハートフルサポート共同事業体に図書館運営と施設管理を任せていただいています。ハートフルサポート共同事業体とは、ＮＴＴグループのテルウェル東日本と練馬区に本社を置く五十嵐商会からなる団体で図書館運営はテルウェル東日本、施設管理は五十嵐商会が担当しております。

（館長・運営担当者の挨拶割愛）

２　図書館職員紹介

館長　副館長　副業務責任者　テルウェル東日本マネージャー

３　参加者自己紹介（自己紹介部分割愛）

４　小竹図書館について

さて、今年の懇談会における練馬区立図書館の共通テーマは「コロナ禍における図書館サービス」です。小竹図書館では、それを具体的に「コロナ時代の読書活動と、公共図書館に望むこと」とさせていただきました。

懇談を始める前に、まずは、小竹図書館の紹介と現状をお知らせします。小竹図書館は平成２年７月に練馬区８番目の図書館として開館しました。実は、昨年の７月に 30 周年を迎えまして、それを記念してさまざまなイベントを考えていたのですが、コロナ感染の影響で中止・延期になってしまいました。開館したときの理念が、「知るよろこびを　くらしの中に　みんながつどう　いこいの図書館」となっており、地域と積極的に関わり、区民の誰もが気軽に利用できる図書館を目指しております。所蔵する資料数ですが、今年の３月 31 日時点のデータで、図書が約 85,400 冊、雑誌が約 2,400 冊、ＣＤなどの視聴覚資料が約 8,300 組で、計 96,100 点になります。このデータは、毎年、練馬区教育要覧に掲載しており、本日は皆さまにも図書館部分を抜粋したものをお配りしております。現状としまして、やはりコロナで来館者数が減っており、コロナがなかった令和元年度は約 231,000 人でしたが、令和２年度は約 174,200 人でした。昨年度は休館していたこともありますが、コロナ禍によって 56,800 人減ったことになります。１日の平均来館者数は、令和元年度は 740 人でしたが、令和２年度は 645 人となり、１日あたり 100 人減ったことになります。年間の個人貸出者数でいうと、令和元年度は 119,000 人で、２年度が 104,200 人と、15,000 人減ってしまいました。また、年間の個人貸出点数は、令和元年度は 388,000 冊で、２年度が 345,200 冊でした。ちなみにこの年間個人貸出点数についていえば、平成 27 年度は 410,000 冊でして、これには人口減やスマホなどの電子媒体の普及、電子図書といった読書環境の変化など、さまざまな事情がかかわっているのではないかと推測しています。

さて、小竹図書館の特色としましては、近隣に日本大学藝術学部と武蔵野音楽大学、武蔵大学という３つの大学があり、学生の利用も多いので、芸術関係の図書やＣＤの収集に力を入れています。隣にはりっこう会がありまして、留学生を受け入れていらっしゃるので、外国語の図書や雑誌の充実にも努めています。さらには練馬区が友好都市連携をオーストラリアのイプスウィッチ市と結んでいますので、そちらからの寄贈書などを集めたイプスウィッチコーナーもあります。また、もうひとつの大きな特色としては、１階にある絨毯コーナーに、小竹町にお住まいだった絵本作家の馬場のぼるさんのご遺族の方から寄付された本を集めた馬場のぼるコーナーがあります。馬場のぼるさんについていえば、今年、小竹図書館 30 周年記念＋１ということと、馬場のぼるさんが亡くなられて 20 年ということで、

夏に２つの大きな講座を開催しました。

一つ目は６月 27 日（日）に美術講座としまして、練馬美術館から学芸員の方をお招きして講座を行いました。練馬美術館でも「まるごと馬場のぼる展」を開催しており、美術の観点から馬場のぼるさんの絵について解説していただきました。

二つ目は７月 25 日（日）の文学講座「馬場のぼるの絵本の世界」です。馬場のぼるさんの新人の頃からの担当だった、こぐま社の編集者をお呼びして、講演会を開催しました。どちらも、コロナでいったん延期したりしましたが、最終的には６月、７月に開催することができ、両講座とも大好評でした。ただし、会場となった会議室の定員は通常 30 人なのですが、コロナで定員を半分に制限しなければならなくなり、お断りすることになってしまった方もいて、心苦しかったです。

では、いよいよ本日のテーマに沿って懇談を進めたいと思います。昨年度に引き続き、今年度もコロナ禍によってさまざまな制約がありましたが、何とか休館せずに図書館運営を続けることができました。ただ、２時間以内の滞在時間や消毒などのお願いをしたり、予定していた事業が中止になることはありました。皆さまの生活の中でも、いろいろとコロナ禍の影響があったのではないかと思います。本日は、そういった現在の状況の中で、区立図書館にどんなことを期待されているのかといったようなお話を伺えたらと思います。頂戴したご意見をもとに、将来に向けての図書館運営について考えていきたいと思います。

今年は、世間一般にコロナ慣れしたり、ワクチン接種なども進んだりして、昨年度と様相も変わってきていると思います。今年、皆さまの生活や地域活動、あるいは各施設さまでの運営上でどのような変化があったのか、または読書活動についての変化などがありましたら、ぜひ教えていただけたらと思います。周辺施設の方は、先ほど自己紹介のなかで、いくつか苦労されたお話が出ていましたが、そのあたりをもう少し詳しく、個人の方でしたら、図書館に来られる回数の変化など、そのあたりをお聞かせいただけますでしょうか。

５　懇談

・コロナ禍における図書館サービス

・コロナ時代の読書活動と、公共図書館に望むこと

利用者　今日はどんなお話を伺えるかな、何を話そうかなと思って来ました。20 日にある光が丘の会議にも参加して話そうと思っていますが、小竹図書館の１階にもあるオレンジコーナーについてです。いま、皆さまの紹介を聞いていたら、高齢者施設の方や町内会の方など、本を読むのが苦手になってきた方、もしくは負担に感じている方、サポートがないと本に結びつかない方など、いろいろな立場の方がいらっしゃることがわかりました。その方たちのための図書をまとめたコーナーを各図書館に作っていると思いますが、小竹図書館では、書架ではなく、移動式の棚で作っているのですね。

図書館　そうですね。移動ができるブックトラックを利用しています。ただ固定はしてい

ます。

利用者　そうですよね。書架には並べていないですよね。今後、高齢化社会になるとしたら、オレンジコーナーをどのように大きくしていくのか、また、使ってもらえるようにどんな工夫をするのか、図書館側はどのように考えているのかと思いました。小竹図書館は小さな図書館なので、いろいろなものを詰め込むのは大変だろうとは思うのですが、いかがですか。

図書館　オレンジコーナーをご存知ない方もいらっしゃると思いますので、少し説明します。小竹図書館では、昨年から一般書架近くにオレンジコーナーを設置しました。オレンジコーナーとは、主に高齢者の方や認知症の方、その家族の方に役立つ本を集めたコーナーで、毎月テーマを決めて本を展示しています。

例えば、今年は「元気になる本」や「親のことが気になったら読む本」などといったテーマを考えました。そんなに広いスペースではないので、常に本は入れ替えるようにしています。移動式ではなく、本当はきちんとした棚を置きたいのですが、館内が狭いこともあり、場所の確保が難しい状況です。できることなら棚を増やしたいのですが、そうすると車いすの方の通行の妨げとなったり、災害時にも困ります。

さて、オレンジコーナーは、医療や福祉、生活などさまざまな分野から、高齢者に役立つ本という目線で司書が選んできた本を展示していますので、高齢者の方に効率よく見ていただくことができます。ここには本だけではなく、練馬区が作成しているパンフレット「高齢者の生活ガイド」なども置いてあり、自由にお持ち帰りいただけるようになっています。

利用者　パンフレットなどもあるのですね。

図書館　はい。自由に選んで持って帰っていただけるようにしています。貸し出す本と区別がつくように配慮もしています。パンフレット類も、もう少し充実させたいと思っているところです。

利用者　これからのテーマですよね。私たちは、子どものための文庫ですが、文庫のなかには、知的障害の子どもたちのために活動している文庫さんがあります。そこに来ていた子どもたちが図書館を利用した際に、ＬＬブックをすぐに探すことができなかったという話を聞いたことがあります。小竹図書館ではないのですけれど。

利用者　ＬＬブックってなんですか。

図書館　大きな活字の本です。大活字本とは少し違うのですが。

利用者　そういうものを探すのが困難な人のために、あまり探さなくても良いように工夫ができないのかという話がでました。各図書館はどのようにしているのか、今度は光が丘の懇談会の時にも質問をなげかけてみようと思います。

図書館　小竹図書館では点字の本や大活字本、布の絵本も所蔵しています。ただ、多くの利用者は自分が好きな本の棚だけを見ていかれることが多いので、布の絵本のコ

ーナーはこちらにありますという表示をするなど、場所の案内ができるように工夫しています。現在、点字本の展示も行っています。皆さまに知ってもらえるような工夫は今後も続けていきたいです。いま、児童に関する話が出ましたが、児童館さんはいかがですか。

利用者　交流事業は、今まで夏休みにドッジボール大会などを行っていたのですが、そういったこともできませんでした。その代わりに、タブレットを使ってオンラインで紙コップをいくつ積めるかとか、ペットボトルキャップを使ったカーリングのようなゲームでお互いに交流するといった行事を行いました。

図書館　タブレットはたくさん用意したのですか。

利用者　各施設にはなくて、区役所が配ってくれたものを使っていました。こういうことがもっと簡単にできるように、各施設にｉＰａｄなどがあると便利だし、もっと日常的に交流ができるようになるといいなと思います。

図書館　町会は今年、神社でのこたけあそびがなくなってしまいましたね。残念でした。

利用者　中止というかたちにはなったのですが、いま別の企画を考えているので、相談しています。

図書館　こたけあそびは、すぐ近くにある八雲神社を会場にして、さまざまな遊びのコーナーを設けて地域交流を図ったイベントでして、小竹図書館から本のよみきかせに行ったりもしていました。よみきかせに参加された人には、除籍になった本を差し上げたりもしていました。

利用者　別の企画というのは、公園のほうで行う予定で、敷地を用意しているところですが、予算がつかず着工できていない状態です。住民の声を聞きながら、進めていきたいと思っています。

図書館　公園の隣の広場で何かやるということですか。

利用者　そうです。コロナの影響で、予定がもっと延びてしまいそうです。

利用者　そこに、自然のままの野原があるといいですよね。公園を作るのではなく、草がそのまま生えているほうが、子どもたちには魅力的だと思います。

利用者　以前、今ちょうど小竹図書館があるあたりに山がありましたよね。そこには遊具があるわけではなく、土に触れられる環境で、子どもの身体能力を育成させるためにもよかったです。遊具を設置するのではなく、そのままにするのも良いと思います。

図書館　もし、何か行われるようなら、小竹図書館からよみきかせなどで参加させていただけたらと思います。他の施設はいかがでしょうか。

利用者　私どもの施設は昨年オープンしました。コロナ禍でかなり苦労しています。絵本を取り扱うことはできませんが、オンラインで親子のふれあい遊びやわらべ歌を紹介することなどを試みています。室内では、人数制限をずっとしていたので、公園仲間を作るような感じで、地域のお母さんと子どもたちがつながるような活動

をもう少ししていけたらと思っているところです。普段は、室内での活動が中心ですが、公園など外に出ようという動きも出始めています。いま、公園がひろがるといったお話もありましたし、これからに期待しています。虫を採れるような場所もなかなかないので、あったらいいなと思います。

図書館　私たちも近くに何の施設ができるのかなと話をしていたのです。

利用者　今は、０歳から３歳の子どもと母親しか来ていませんが、もう少し状況が落ち着いたら、地域の方にも見学に来ていただけるような仕組みを作りたいと思っています。

図書館　いま、お話にも出てきましたが、オンラインでのよみきかせは、かなり制約があります。すべての本には著作権があり、作家や出版社に許可を取らなければいけないので、それが大変ですね。不特定多数の人に発信するということで、難しい面があります。小竹図書館でも実践したいと考えていたので、何か相談にのれることがあればと思います。

利用者　私どもの施設は、昨年は特に、外になかなか行くことができないという状況が続いていたので、小竹図書館の団体貸出しをよく利用していました。団体貸出しで借りた本を使って、子どもたち同士でのよみきかせの回数を増やしていきました。狭い施設で、置いている本の数も限られていたので、子どもたちが多くの本や紙芝居の中から、自分たちで選んでよみきかせをするというのは、コロナ禍の限られた中での楽しみの一つになっていました。子どもたちの中でも、私が読んであげたい、やってみたいという積極的な姿勢が見られました。１年生から３年生の子どもたちが来ている施設なのですが、今までは、３年生の子が１年生の子によみきかせをするというかたちが多かったのですが、３年生の姿を１年生が見て自分たちもよみきかせをしたいという声が出てきて、２、３年生がそれを見守るといった時間が生まれていました。コロナ禍で大変ではありましたが、こういった時間が取れたのはよかったです。子どもたち同士の楽しみ、関わりの一つで本を使うことができました。

図書館　普段はどうしていたのでしょうか。外遊びに連れて行かれていたのですか。

利用者　短時間ですが、江古田駅北口公園、栄町児童館の隣のさくら児童遊園、八雲公園に遊びに行っていました。昨年はどのタイミングで外に行くのかを決めるのが難しかったです。最近は、コロナ感染が少ない時期に出ていくようにはしていますが。昨年は、本の力に助けられた１年でした。

図書館　先ほど、自己紹介のなかで、今年度閉鎖するというお話がありましたが、そのあとは次の事業者さんが入るのでしょうか。

利用者　今のところ、代わりの事業者が入ったり、どこかに移転するなどといった話はでていないです。

図書館　そうすると、来ていた子どもたちはどうなってしまうのでしょうか。

利用者　児童館さんなどにお世話になると思います。いま、保護者の方と面談を行いつつ、どうしていこうかと考えているところです。現在、主に来ていただいているのが、旭丘小学校と開進第三小学校の子どもたちで、他に豊玉東小学校、豊玉第二小学校からも数人来ています。児童館さんにお願いするか、学童申請をするかなど相談をしています。

図書館　ここまで、子どもに関する施設の方にお話をお聞きしました。次に、高齢者施設の方はいかがでしょうか。昨年と今年でコロナの影響はどのように変化しましたでしょうか。

利用者　昨年の時点で一番大きかったのは、入浴ができないということでした。コロナ前までは、家のお風呂を物置にしてしまったとか、一人でお風呂の準備をするのが大変といったような地域の高齢者が、１日に男女 50 名くらい来ていました。無料で使えるということと、お風呂が大きくてゆったりと入れますから。しかし、コロナ感染が増えると、全体の利用者が半減し、いかにお風呂の需要が高かったかということを感じました。その分、体操の講座や講話、教養講座といったものを増やしました。今、お風呂だけいらしていた方が全く来られなくなってしまい、１人暮らしの方も多い地域ですし、どうされているのかなと気になっています。

そこで、高齢者の方でもスマートフォンを持たれる方が増えてきたので、その講座などを、オンラインで行っています。ただ、スマートフォンはいらない、使い方がわからないという方も結構いて、なかなか噛み合わないところもあって、難しい状況ですが、なるべく需要に沿ったものをやっていきたいと思っています。その反面、活動したいという人はコロナに関係なくたくさんいらっしゃいます。１日動かないと体が固まってしまって動けなくなるという話もあり、それで外に出ているようです。高齢者の方は、若い世代と交流するのも好きなので、私たちとしては、世代間交流をやっていきたいなと考えています。若い世代の方と交流すると、生きる活力も湧いてきます。小竹図書館との連携事業のよみきかせで育ったボランティアが約 20 名おり、保育園や児童館で活動させてもらっていますが、そういった機会をもっと増やしていきたいと思っていますので、お子さんがいる施設の方と、のちほどお話させていただきたいと思っています。高齢者の方は知恵を持っていらっしゃる方が、とにかくたくさんいらっしゃいます。ＳＤＧｓなど高齢者の方の知恵を若い世代の方に伝えられる機会を増やし、輪投げ交流会を開催したり、こたけあそびなどにお邪魔させてもらえたら、地域の高齢者との結びつきができるのではないかと思いました。いろいろとつながりが増えていったら、とてもうれしく思います。

図書館　先ほど、お話に出ました連携事業ですが、今年で７年目になる、絵本のよみきかせ講座のことをおっしゃっています。小竹図書館の児童担当が、絵本の選び方など、よみきかせのコツをお伝えする講座です。１期生は十数人いらっしゃいまして、そ

の講座を卒業した有志でボランティア団体を作り、児童館や保育園に行ってよみきかせ活動をしています。昨年からは、コロナで行くのが厳しくなり、活動の場が少なくなってしまいました。活動している方は、誰かの役に立ちたいという思いが強く、活動の場をもっともっと広げたいと望んでいらっしゃいます。もし、よみきかせをやってほしいという施設の方がいらっしゃいましたら、お声がけいただきたいです。

それから、今年で３年目になりますが、小竹図書館では戦争体験を語ってくださる方を招いて講座も行っています。参加対象が小学生なので、戦争体験者の方には自分が同じ小学生だった時にこんな体験をしたという目線で話をしてもらっています。今の小学生は、「戦争」と聞いても、なかなかイメージがわかないと思います。公共図書館として、そういうことを伝えていくのも大切かなと思ったので開催しました。ただ、語り部さんも高齢化して年を追うごとに減ってきています。もし、お近くに戦争体験を語ってくださりそうな方がいらっしゃいましたら、ご紹介ください。

図書館 さて、他の高齢者施設の方はいかがでしょうか。

利用者 私どもの施設の状況としまして、コロナ前と後で相談件数に大きな差がなく、今年はむしろ増えている状況です。ひと月の平均相談件数が 600～700 件です。昨年は 500 件前後というところが多かったのですが、今は 100 件くらい増えてきたなと思います。コロナになって、館内は制限されていたのですが、センターは基本的に業務を止めることなく、事業を継続していました。コロナ前とコロナの今も、大きな変化はありません。ただ、制限されているものもありまして、高齢者の体操や介護予防などの教室を開いていますが、施設の地域集会所などを借りて毎月開催しているので、定員を半分にして予約制にしており、お断りしなくてはならないケースがあるのは心苦しいところです。

10 月に緊急事態が解除になりましたが、感染がどうなるかまだまだわからないので、会場自体は使えても、こちらとしては、制限を設けたまましばらく継続しなければならないかなと思っています。

先ほど、別の施設の方からもご意見がありましたが、家にこもってしまって、外との接点がなくなってしまった方、今までなら近所で見かけていたのに、コロナになって１年以上見かけない方もいらっしゃいます。他の方との接点がなくなってしまったために、認知症が進行してしまい、今までなら元気に施設に入れた方が、要介護状態というかたちで、かなり状態が悪くなってからの支援になってしまうケースもあります。認知症が進行したことによって、お金の管理も厳しくなり、公的な第三者に金銭面の契約行為を代行してもらう制度を利用しなければならない方は今まで数か月に１件程度だったのに、今では月に２、３件新規で受けるようになりました。コロナも１年以上経ち、今後、徐々に顕在化してくるのかなと思いま

す。

図書館　皆さまかなり苦労されているようで、やはりコロナ禍によるなんらかの影響を受けていらっしゃるようですね。この懇談会も、前回までは自由参加でしたが、今回は予約制になりました。図書館では、手指の消毒や検温も行っていますので、利用者の中には、ちょっと図書館に行くだけなのに、たいそうだなと思われている方もいらっしゃるようです。夏頃には、暑いのでマスクをしたくないという人も出てきて、こちらの対応もとても難しかったです。

こういった状況の中で、施設同士の交流がやりにくくなっていると感じます。イベントなどを予定していても、感染者が増えてくると先送りにするなどしています。図書館としてコロナ感染予防策の取り組みは、検温付き消毒器の設置や、イベント時の検温と消毒、そして、これはコロナウイルスに有効かどうかまだ実証されていませんが、本の消毒機も設置しました。そういった状況下で、公共図書館に望まれること、思っていらっしゃることがありましたら、ぜひお聞かせください。

利用者　本の消毒機について質問です。私はよく、雑誌を借りますが、バックナンバーの雑誌は貸出していますよね。そういったものが返却された時も、本の消毒機で消毒しているのですか。

図書館　戻ってきた本は、本の消毒機では消毒していません。

利用者　書架にある本は人の手に触れたりしますよね。そういうのは定期的に消毒しているのですか。

図書館　一度手に触れた本は、書架のそばに置いているカゴに入れてもらうようにお願いしています。それを一晩寝かせてから書架に戻すといったことを行っています。

利用者　雑誌をよく見ますが、見終わったらカゴに入れなければいけなかったのですね。

図書館　そうですね。一度手にされたものは、カゴに入れるようにお願いしています。

利用者　本の消毒は、具体的にはどのように行っているのですか。1ページずつ消毒するのでしょうか。

図書館　先ほど、一晩寝かせているといいましたが、予約が入ってしまうと困りますので、一旦、本を修理中というかたちにして、予約がかからないようにします。翌日また返却をあてて、予約が入るようにしたりと、いくつか過程を踏まなければなりません。作業に慣れるまでは、私たち図書館員も苦労しました。

利用者　話は変わりますが、長いスタンスで考えると、紙媒体の本を見るというよりも、デジタル的なものに変わっていくのかもしれないですよね。本だけに限らずですが、時代的にインターネットなどで、情報を入手する人が多いですよね。私も 70 歳を超えていますが、インターネットを見ることが多くなりました。そういうものに対応する図書館というのも必要になってきますよね。国会図書館では、すべての本を所蔵しているというのをテレビで観ました。その時に、インターネットの情報は切り捨てて良いのかといったことも内容としてやっていたと思うのですが、こ

ういった知識のデジタル化したものを保存しておく必要があるのか、ないのか、考える必要がでてくるんですね。図書館に来て本を借りて、また返してという概念も変わってくるのでしょうか。

図書館　国会図書館には、全国の出版社が本を出版すると１冊献本するということになっていますので、原則、日本で出版されたすべての本があります。電子書籍については、進めているのでしょうが、まだすべてを網羅するのは難しいと思います。練馬区もようやく電子書籍を入れようというところまでは来ていますが、まだ入っていないのです。電子書籍も進めていきたいですが、紙で読みたいという人や、作家さんによっては著作を電子化されるのは嫌という方もいらっしゃるようなので、課題は少なくありません。

利用者　コロナによって、貸出す本の傾向は変わったりしましたか。

図書館　最近、雑誌の貸出しが減ったように感じます。ただコロナの影響かどうかはわかりません。雑誌は、月額の会費を払っていくらでもタブレットなどで見られるというシステムがいくつかできています。安くて、何でも読めて、種類も豊富で便利だと思う人もいるでしょう。それと、最近、雑誌の休刊が増えてきました。館内の雑誌の書架も、休刊の貼り紙をつけた棚が何か所かあります。先ほど出た本のデジタル化についてはいろいろな問題があります。紙の本だと、除籍して捨てない限りいつまでも残りますが、デジタルの本ですと、出版社と何年間かの契約を結ぶ形になり、その期限を過ぎたら図書館では読めなくなってしまいます。便利な反面、難しい問題も多いですね。

ところで、布の絵本はいかがでしょうか。ある意味、デジタルとは対極にありますよね。

利用者　手で触るというところに、意味があると思って、私たちは作り続けています。

図書館　布の絵本は、布で作られた絵本ですが、アップリケで帽子が取れたり、お腹を開けたら魚が出てくるなど、楽しい仕掛けがいっぱい施されていますので、ぜひ、いろいろな方に使っていただきたいです。手で触るなど、五感を使って感じ取るという人間の本能が刺激されるので、布の絵本の果たす役割は決して少なくないと思います。

利用者　私は試しに、ｅ－Ｂｏｏｋ　Ｊａｐａｎというものをパソコンに入れました。安い値段で１冊入れてみましたが、結局１回も読んでいません。画面上にマーカーを引くことは出来ても、それを印刷することはできないし、行間に文字を書き込むこともできない。これは、すごく使いにくいなと思いました。今後こういった細かいこともできるようになるのかもしれませんが、すべてが良いとは言えないかもしれないですね。少しずつ書き込める紙の本には、やはり圧倒的に魅力があるかもしれないですね。

図書館　私もインターネットで何かを検索して画面に出しても、スクロールして読むの

が面倒で、紙に印刷してしまいがちです。今の小学生はどうなのでしょう。学校で一人ひとりタブレットなど支給されているのですか。

利用者　そうですね。学校で一人一台、渡されていると聞いています。子どもの遊びもそうなのですが、不要不急といって、切り捨てられないような世の中であってほしいと感じています。図書館もしばらくコロナで休館されていましたけど、不要不急という言葉で閉館にならないように、いろいろな人たちに支えられて、待望されている施設だと思います。ぜひ、今後も開館してほしいなと願っています。

利用者　私は自粛期間中、すごく本を読みました。今、何か頼りになるものがほしいですよね。本はとても勇気をくれると思っています。『老人と海』を読み返したりしたのですが、勇気を持って生きている人の話がすごくよかったです。そういう意味で、今、図書館が貸出す本の内容が変わってきたりしていませんか。

図書館　貸出しの本の内容については、それほど変化を感じていません。ただ、普段、図書館で選書するにあたっては、『老人と海』のような名作も少しずつ買い直すようにしています。いろいろな人が借りていくので、段々と劣化が進みますので。あと、最近感じることの一つとして、文学もすごく細分化されてきており、ある本をあらゆる世代の人が読むのではなくて、ライトノベル（10 代向け）など、対象を絞ったような出版が増えているかなと思います。選書する側としましては、それぞれの本が、幅広い年齢層の利用が見込めないので、選ぶのが大変といえます。

昨年は休館時期がありましたが、今年はありませんでした。現在、ワクチン接種も進み、感染者は減ってきていますが、感染者が増え続けている時期は、当館の図書館員が感染したらどうしようと、すごく悩ましかったです。しかし、今となっては、開館していてよかったのかなと思っています。昨年度は２か月ほど休館し、その間、新聞や雑誌など新しいものが入ってきても、すぐにご利用いただけず、もったいないと思っていたのです。利用してもらってこその図書館だと、その時すごく感じましたので、今年は細々とでも開館することができてよかったと思います。また、購入費も減ったりしていますので、今後はさらに厳選して皆さまに喜んでいただける本を購入する必要があるでしょう。

皆さま、個人的にさまざまな趣味やご要望があると思いますので、それはリクエストカードなどでお寄せいただけたら、検討させていただきます。

利用者　ジャンル別に分かれた読書会活動みたいなものは、ないのでしょうか。例えば、ライトノベルが好きな人たちが集まった読書会などはどうですか。

図書館　それはいいですね。

利用者　面白いですよね。感想を言い合うというのは、本を理解したり、本を好きになることの契機になると思います。

図書館　現在、小竹図書館では、「ボランティアの時間」という修理講座を行っています

が、本の修理をしながら、最近読んだ本の感想を交わす時間を設けています。ただ、この講座は同じ趣味の方が集まっているわけではないので、今ご意見いただいたような同じジャンル好きが集まっての読書会は面白そうですね。

利用者　私は、物としての本が大好きです。眺める本などもいいのではないでしょうか。装丁を含めての本ですね。美術品のような綺麗な物もあります。そういう展示会があっても面白そうです。

利用者　ところで、一つ聞いてもいいですか？　本当にこの図書館から感染者が出る事例はなかったのですか。

図書館　幸いなことにありませんでした。今後も感染予防は徹底していきたいと思いますので、安心してご利用いただけたらと思います。

お話は尽きないと思いますが、終了時間になりましたので、このあたりで利用者懇談会を終了したいと思います。本日、お聞きしましたご意見は、今後の図書館運営に活かしていきたいと思います。今後も皆さまとの絆を深めていき、地域の方々に愛される図書館を目指してまいりますので、今後ともご協力、ご指導のほど、よろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。